

潮来市消費生活センターからのお知らせ

販売サイトで契約内容をよく確認！ 定期購入トラブル

【事例】

ネットの広告を見て、特別価格約3千円的美容液を購入した。肌に合わず使用をやめていたが、商品が再び届き、定期購入だと初めて気付いた。すぐに業者に解約と返品を申し出たが、「発送日の10日前までに申し出ないと対応できない」と言われた。2回目の商品は1万円以上でとても高い。申し込み時には、定期購入だと分からなかった。どうにかならないか。(60歳代 女性)



【解説】

- 1回だけのつもりで申し込んだが、定期購入になっていたという相談が多数寄せられています。
- 詳細な契約内容は、「〇%オフ」などの目立つ表示と離れた場所に表示されていたり、小さい字で書かれていたりすることがあるため、画面の隅々まで見るなど注意が必要です。
- 「解約の申し出は次回発送日の〇日前まで」などと解約条件が定められている場合も多くあります。注文する際には、解約条件などの契約内容をしっかりと確認しましょう。

困ったときやトラブルにあってしまった場合は、一人で悩まず、すぐに潮来市消費生活センターにご相談ください。

【お問合せ】 潮来市消費生活センター ☎62-2138

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

小学生たちが水質・生物調査を体験！

コロナ禍の夏ですが、水圏ステーションは実習で大忙し。全国の大学生が水質や生態系、外来種、地形・地質などについて学ぶリモート臨湖実習の日々です。このような大学生向け実習とは別に、子ども向け環境学習にも参画しています。そのひとつが、6月18日に延方小の4年生約60名が参加した総合的な学習「調べよう 私たちの霞ヶ浦・北浦」です。小学校の先生たちと北浦湖岸自然を守る会の方々が行う校外学習に、ステーションの学生メンバーがお手伝いで参加しました。

北浦湖岸に集合した生徒たちは、透視度計で湖の水がどのくらい透明なのかを調べました。さらに、ひとり一人が化学的酸素要求量(COD)のバックテスト(試薬入りの透明チューブに水を入れて色の変化を見る)で、水質汚染の程度を調べました。水を入れるのに苦戦しつつも、「色が変わった!」とか「なんで水がよごれるの?」との声も。

次に、自然を守る会の方々が集めてくれたアメリカナマス、ギンブナ、タナゴ類、ウシガエルのオタマジャクシ、クサガメなどを観察しました。大学院生が外来種による影響のほか、タナゴ類が二枚貝に産卵すること、ギンブナがほぼ雌しかいないことなどを説明すると、おもしろがって聞いてくれました。魚のヌメヌメした感触を楽しんでいた生徒からは「サカナはまばたきするの?」という鋭い質問も!(水中では目が乾かないので、まばたきはしない)。大学院生の投網の実演にも、みなさん注目してくれました。

人間活動のせいで水が少しよごれている湖ですが、意外と多様な生きものが暮らしています。生徒たちは地域の水環境の大切さを、野外で体感しながら学んでくれたようでした。

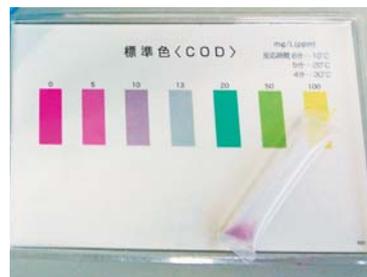
茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境
フィールドステーション
浜野隼・近藤陸人・柏谷翔大・樽井美香



魚の解説を熱心に聞く生徒たち



アメリカナマス



CODのバックテスト

第65回